

中原通信

文責 増永 善久



第2ステージに入りました

7月19日～8月25日までの夏休みが終わり、第2ステージがはじまりました。夏休みは、サマースクールやプール開放に多くの児童が参加する姿が見られたり、8月24日の空き缶・空き瓶回収では、朝早くから保護者の皆さんと一緒にいきいきと活動する姿が見られたりしました。また、事故や大雨の被害の報告もなく、夏休み明けには元気な子どもたちの姿が見られ、安心しているところです。

第2ステージ以降も様々な学校行事が予定されています。9月13日(土)には「校区大運動会」、11月には「ぎんなん祭」と大きな行事があります。また、地域の熊野座神社秋の例大祭があり、中原楽に参加する子どもたちもいます。

現在、自分の興味や関心に気付くことが難しい子どもが見られたり、他者に気持ちを伝える力が弱い子どもが見られたりするそうです。学校行事や地域の行事に参加し、体験することは、コミュニケーション力、物事への興味関心、目標を目指して粘り強く取り組む力などを高めることにつながると思っています。



夏休み明け集会より

夏休み明けの集会で、本校で進めている3つのする「あいさつする」「なかよくする」「かんしゃする」について、夏休みどうだったか、子どもたちに尋ねてみると、『できています』とうれしい返事が返ってきました。3つのするを意識してくれていると感じました。

その他、子どもたちに3つ話をしました。1つ目は、子どもは可能性を秘めていることについてです。今年の夏に沖縄で行われた全日本中学校陸上競技選手権大会で知り合いの中学校3年の生徒が3位に入賞しました。長く中学生に関わってきた私にとっても、その子の成長は予想をはるかに超えるもので、この年になっても子どもの可能性の素晴らしさに驚きました。そこから、みんなそれぞれ可能性を持っていることについて話をしました。

2つ目は、自分なりの努力についてです。夏の甲子園大会でベスト4に入った県立岐阜商業の横山選手は、ハンディキャップを乗り越えるため、相当の努力をしたのではないのでしょうか。皆さんも何か自分の前に壁があるときは、その壁をのり越える工夫や努力をして、前へ進んでほしいと話しました。横山選手は、自分が野球で成長するために、自分なりの努力をし、すばらしい成績を残したと思います。自分なりの努力の方法は、参考とするものがあまりない中、横山選手、自らが考えてたどりついたものではないのでしょうか。「自分で考えること」は、時には面倒くさく、時間がかかり、効率が悪いことかもしれません。しかし、自ら課題解決のために、自分で考えて、試行錯誤して、最終的に自分で答えを導き出したからこそ真の本人の力になつがったんだと思いました。

最後は、災害についてです。今年の夏には、これまで経験したことがないような大雨が熊本の各地に降り、多くの被害がでました。これから台風が多く発生する可能性が高くなる時期になるので、災害について、しっかりと家族で話をしてくださいと子どもたちに伝えました。

その他、集会では、読書への取り組み状況についての話、悩みなどがあるときは相談することの大切さについての話、「きよらっ子の歌」(伝統ある南小国町の小中学校で学ぶ「きよらっ子」が、南小国町の子どもとしての誇りと喜びを表現する歌)の披露などがありました。

※保護者の皆さまには、先日の空き缶・空き瓶回収たいへんお世話になりました。また、第2ステージ以降もこれまでと同様、運動会をはじめとする学校行事などへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。